

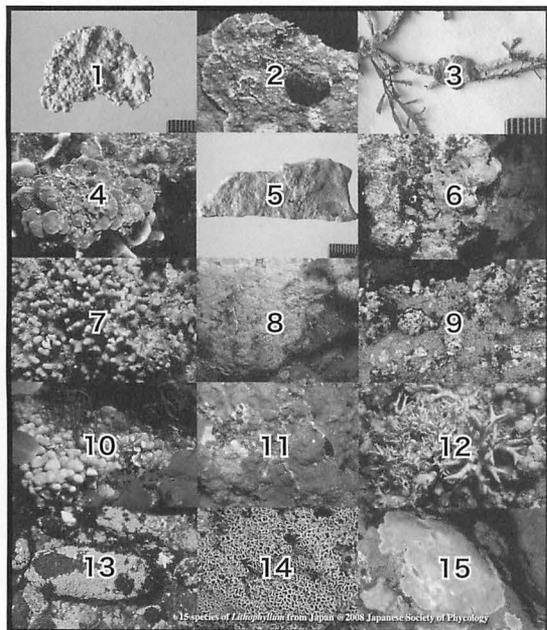


日本のイシゴロモ属

紅藻イシゴロモ属は、炭酸カルシウムを体内に多量に沈着するため石のように硬くなる。世界中に分布し、日本からは15種が報告されている。そのなかでヒライボ（写真10）は国内の広い範囲でもっとも普通にみられる。エゾイシゴロモ（写真15）は北日本の磯焼け海域で優占種になることが多い。ミナミイシモ（写真7）、モルッカイシモ（写真12）はサンゴ礁域に分布する。イシゴロモ属は他の無節サンゴモ類と同様に、外部形態の特徴が少なく分類が難しいとされるが、成長様式がある程度の手助けになる。日本産イシゴロモ属は、殻皮状（写真2, 3, 5, 6, 8, 11, 15）、殻皮状からイボ状（写真1, 9,

13）、コブ状（写真10）、低木状（写真7, 12）、葉状（写真4, 14）の種にそれぞれ区別できる。確実な種査定には、石灰化した藻体を脱灰して体構造と生殖器巣を観察することが不可欠であり、イシゴロモ属には隣接する細胞系の細胞間に第2次原形質連絡がある。これまでサンゴモ類では、膝節の有無を重要視した亜科レベルの分類が行われてきた。しかし最近の分子系統学的解析の成果では、膝節を持たないイシゴロモ属と膝節を持つカニノテ属を同じ亜科に含める見解が再評価されている。今後は分子形質の利用により、サンゴモ目各属の類縁関係の推定が進展するものと期待される。

（財団法人海洋生物環境研究所 馬場将輔）



1. *Lithophyllum absimile* Foslie et Howe イワノサビ（北海道函館市産，北海道大学水産科学研究所蔵）
2. *L. acanthinum* Foslie コトゲコブイシモ（千葉県鴨川市，生態写真）
3. *L. amplexifrons* (Harvey) Heydrich クサノカキモドキ（静岡県下田市産，北海道大学水産科学研究所蔵）
4. *L. bamleri* (Heydrich) Heydrich ヒライタイシモ（沖縄県石垣市，生態写真）
5. *L. caribaeum* (Foslie) Foslie f. *boreale* Masaki キタニセウミサビモドキ（北海道北斗市産，北海道大学水産科学研究所蔵）
6. *L. insipidum* Adey, Townsend et Boykins（沖縄県石垣市，生態写真）
7. *L. kotschyianum* Unger ミナミイシモ（沖縄県石垣市，生態写真）
8. *L. neoatalayense* Masaki クボミイシゴロモ（新潟県柏崎市，生態写真）
9. *L. neofarlowii* Setchell et Mason コブイシゴロモ（北海道函館市，生態写真）
10. *L. okamurae* Foslie ヒライボ（石川県門前町，生態写真）
11. *L. punctatum* Foslie（鹿児島県和泊町，生態写真）
12. *L. pygmaeum* (Heydrich) Heydrich モルッカイシモ（沖縄県阿嘉島，生態写真）
13. *L. shioense* Foslie ミサキイシゴロモ（和歌山県串本町，生態写真）
14. *L. tortuosum* (Esper) Foslie ハチノスイシ（静岡県下田市，生態写真）
15. *L. yessoense* Foslie エゾイシゴロモ（新潟県佐渡市，生態写真）

写真は、すべて馬場将輔博士が撮影。